

# ヒトと動物の関係学会誌

Japanese Journal of Human Animal Relations

## 投稿のご案内

### 1. 投稿資格

投稿現行の執筆者は本学会の会員とします。共著の場合は、著者全員が会員である必要はありませんが、責任執筆者は会員であることとします。責任執筆者は投稿および審査、校正など当該原稿の編集に関わるすべての過程について単著執筆者と同等の責任を持ち、原稿が採択され学会誌に掲載された場合は照会先となります。責任執筆者は第1著者でなくても構いませんが、原稿表紙で明示してください。

### 2. 原稿の内容

投稿原稿の内容はヒトと動物の関係に関するものとなります。投稿原稿は、ヒトと動物のよりよい関係の構築に寄与し、会員の相互啓発、議論の深化につながるものが望まれます。本学会の趣旨に反する原稿、倫理面への配慮に欠けると思われる原稿は採択しません。

### 3. 原稿の種別

投稿原稿は、大きく「論文」「報告」「コミュニケーション」に分類されます。投稿の際は、どの区分および種別（下記参照）であるかを明示してください。

**A. 「論文」**は学術的な観点から執筆されたもので、学術論文としての掲載審査（査読）の対象となります。原稿の長さは、図表や写真を含めて本誌刷り上げ10ページ以下を原則とします。必要な情報に欠落があっても構いませんが、冗長な記述は避けてください。

「論文」は、以下の2つに分類されます。ただし、編集委員会の判断により、例外的にこれらとは異なる種別で掲載することがあります。

(1) 研究論文 (research paper) は、体系的に実施された実証的学術研究や、特定のテーマに関する問題について論議・考察した論説論文とします。

(2) 総説 (review) は、特定のテーマに関する先行研究を展望した学術論文とします。

**B. 「報告」 (report)** は、具体的・実践的あるいは予備的な報告で、掲載審査（査読）の対象となります。その内容により、「症例報告」「技術報告」「実践報告」のように、区分して掲載することがあります。

**C. 「コミュニケーション」** は、会員間の情報・意見交換を主目的とするもので、学術的価値ではなく、本学会の会員にとって有益・魅力的な記事であるかどうかを基準に、

編集委員会で採否を決定します。「コミュニケーション」は以下の4つに分類されます。ただし、編集委員会の判断により、例外的にこれらとは異なる種別で掲載することがあります。

(1) トピックス (topics) は、ヒトと動物の関係をめぐるさまざまな事項（社会的事件を含む）についての紹介や意見とします。

(2) 書評 (book review) は、ヒトと動物の関係に関する書籍の紹介・批評とします。書名・著者名（訳者名）、出版社名、出版年、価格、ISBNなどのデータを必ず付してください。

(3) エッセイ (essay) は、会員自身の体験や興味にまつわるエッセイ。短い原稿については、「ショートエッセイ」として掲載することがあります。

(4) 会員の広場 (member's square) は、本誌を通じて他の会員に連絡・宣伝したい集会などの記事、本学会および学会誌に対する感想や意見とします。

### 4. 原稿の体裁

「論文」は次ページの書式にしたがって、次のどちらかの方法で投稿してください。

(1) 電子投稿：次ページの書式にしたがって、図・表を割り付け、pdfもしくはwordファイルで以下のアドレスにお送りください。

(2) 印刷投稿：「論文」「報告」は原稿3部（または原稿1部、コピー2部）、「コミュニケーション」は原稿1部を以下まで郵送してください。なお、「論文」「コミュニケーション」とも、採択後に、テキストファイルまたはMicrosoft Wordのファイルで原稿を提出いただくこととなります。

### 5. 原稿の送付・問い合わせは、下記宛にお願いします。

「ヒトと動物の関係学会誌」編集委員会

(1) [submit@hars.gr.jp](mailto:submit@hars.gr.jp)

(2) 〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 46

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科  
(山越言)

原稿の受付日は原稿が上記編集委員会に到着した日とし、著者に通知します。

「論文」「報告」は、2名以上の匿名の専門家によって審

査(査読)します。審査結果をもとに、採択または不採択の通知を編集委員会から著者に行います。条件付き採択の場合は、修正原稿を提出していただくことになりま(再審査となる場合があります)。「コミュニケーション」は、編集委員会にて迅速に採否をお知らせします。

## 6. 掲載料等

投稿原稿についての掲載料は必要ありません。ただし、著者が別刷(抜刷)を希望する場合は実費とします。別刷を必要とする場合は校正時に申告して下さい。また、カラー印刷・英文校閲・掲載に不適切な図表のトレース作業については、実費を求める場合があります。

## 7. 著者校正

著者校正は初校のみとします。校正に際して、内容に重要な変更を行なう場合には、編集委員会の判断により、掲載延期・再審査とすることがあります。

## 8. 著作権

本誌に掲載された全ての論文・記事の複写権、公衆送信権は、本学会に帰属します。著者本人が他の雑誌や著書などに、論文・記事の転載を希望する場合は、編集委員会に申請があれば、原則として無条件に許可し、使用料は徴収しません。ただし、本誌に掲載された論文・記事であることを明示して下さい。なお、ホームページへの掲載など公衆送信については、編集委員会でも可否を審議します。著者以外の方による転載、公衆送信については、編集委員会および常任理事会でも可否を審議します。

# ヒトと動物の関係学会誌

## 論文原稿書式

### 1) 表紙:

表紙には表題、著者名、所属機関、郵便番号、住所、所属変更等に関する脚注、内容を簡略に示した20字以内の略題、およびキーワード(日本語及び英語4~5語)を記す。住所は郵便連絡に十分な程度に記すとともに、メールアドレスを記載すること。脚注に英文による表題、著者名を記す。表紙左上隅に希望するカテゴリー(研究論文、報告、総説など)を記す。

### 2) 本文:

(1) 原則として、要約(邦文400字程度及び英文200字程度)、本文(序論、材料と方法、結果、考察などにわけてもよい)、謝辞、註、引用文献、表、図の表題及び説明(和文)、原図の順序とし、表紙を1ページとして全てにページをふる。本文の見出しはなるべく、章は1. 2. 3. ...、節は1) 2) 3) ...として統一する。英文はネイティブチェックを受けておくこと。

(2) 日本語ワードプロセッサを使用し、A4用紙を縦

長に用いて、2ページ目に邦文表題、邦文著者名と所属、邦文要約、邦文キーワード、英文表題、英文著者名と所属、英文サマリー、英文キーワードを一段組で割り付ける。本文は、A4用紙縦長で2段組で片段を26文字×44行に設定の上、本文、図、表、写真をレイアウトする。新仮名使いで、学術用語以外は当用漢字を用い、句読点には1字分をあて、改行は行頭1字分をあけて書き出す。

(3) 略語を使用するときは論文中に始めて使用するときに完全な語を掲げ、その後に略語をカッコで括って提示する。数字は算用数字を、単位は原則として国際単位系(SI)を用いる。単位記号としては、M, mM,  $\mu$ M, N, m, cm, mm,  $\mu$ m, pm,  $\text{cm}^2$ , l, ml,  $\mu$ l, kg, g, mg,  $\mu$ g, ng, pg, h, min, sec, msec, rpm, Hz, GBq, MBq, KBq, cpm, dpm, ppm, C, cal, Kcal, luxなどを用いる。

### 3) 表・図:

図表は著者が割り付けを行うこととし、印刷や解読が十分に可能なサイズと質にする。また、配置が不適切な場合には編集委員会でも変更することがある。

(1) 表には縦ケイを使用せず、脚注を要する時には表示の語句の右肩に1)、2)、3)を付記し、表の下欄外にそれぞれの説明を記す。

(2) 図(データ)には番号(図1、図3など)を付し、図中に記号、矢印、スケールなどの表示を必要とするときはレタリング等を用いて直接記入する。図(データ)、図(写真)は併せて通し番号とし、各図の表題及び説明(和文のみでよい)は図の下部に記載する。

### 4) 文献:

文献は引用順に番号をふり、本文および図表の説明中には文献番号(例[1], [1-3], [3-5, 7])を記す。引用文献欄においては番号順に並べ、以下の要領にしたがって記す。

1. Hart BL. Medial preoptic-anterior hypothalamic lesions and sociosexual behavior of male goats. *Physiology and Behavior*; 1986; 36: 301-305.
2. Desjardins C, Lopez MJ. Sensory and nonsensory modulations of testis function. In: Steinberger A, Steinberger E(eds.). *Testicular Development, Structure and Function*. New York: Raven Press; 1980: 381-388.
3. Yanagawa T, Shirasu K, Uemura T, Minaguchi H. Effects of chronic administration of GnRH analog to the pituitary and the ovary. In program of 8th International Congress of Endocrinology; 1988: Kyoto, Japan. Abstract 189.
4. 梶秀人、瀬戸勝男. 匂いの記憶と生殖内分泌. *日本生理学雑誌*; 1991; 53: 151-168
5. 下河内稔, 志村剛. 哺乳類の性行動. *新生理科学体系* 11卷(久保田競, 小野武年編). 東京: 医学書院; 1989; 107-115.